ごあいさつ

理事長　加藤　良三

本年４月１日㈪より、「財団法人野球体育博物館」は「公益財団法人野球殿堂博物館」として新たな第一歩をスタートいたしました。これも、偏に関係各位をはじめ、皆様方のご支援、ご協力の賜と深く感謝申し上げる次第であり、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、当館は昭和31（1956）年にプロ野球公式戦開始20周年記念事業として設立が検討され、後楽園スタヂアム第４代社長・田辺 宗英記念事業委員会及びアマチュア野球界の協力を得て、日本野球界全体で運営する野球殿堂・博物館として昭和33（1958）年に文部大臣（当時）の認可を受け、翌34（1959）年６月に開館いたしました。今年６月を以て54年が経過することになります。

設立時は、後楽園球場の三塁側の遊園地に隣接して建てられましたが、その後昭和63（1988）年３月の東京ドーム開場と同時に、現在の東京ドーム21ゲート右隣に移転いたしました。開館以来、野球を中心とするバットやグラブ等の用具類、写真、トロフィー等の記念品類を幅広く継続的に収集し、その収蔵品は約３万点に達しました。また図書室には、野球・各種スポーツ書籍が約５万冊あり、今や名実ともに国内最大規模の野球専門博物館としての地位を確立いたしました。

また、昭和34（1959）年開館と同時に行われています、日本野球の発展や隆盛に多大な貢献をされた人々を選出し、「殿堂入り」として永久にその名誉を讃える殿堂事業は、今年で表彰者が180名となりました。当館の基幹事業に成長した殿堂事業に対する世間の注目も年々高まっており、今年１月の「殿堂入り記者発表」には100名を超すマスコミ関係者が集まり、テレビ、新聞などで大きく報道されましたことはご記憶に新しいことと思います。野球殿堂事業が注目される今、「公益財団法人」認定を機に、さらに認知度を高めるため名称を「野球殿堂博物館」に変更いたしました。

職員一同、博物館事業を通して従前にもまして「野球文化」の発展に寄与してまいりますので、何卒引き続きご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

除幕・テープカット

4月1日、前日の花冷えの雨模様とうって変わり、当館の新たな出発を祝福するような、春の暖かい日差しの中、博物館入り口前において厳かにテープカットの式典が行われました。式典には加藤理事長はじめ、当館の理事を務められている（公財）日本野球連盟市野会長、㈱東京ドーム林代表取締役相談役、（同）久代代表取締役社長にご参列いただきました。加藤理事長の挨拶の後、司会者の掛け声とともに新館名を覆っていた幕が引き上げられると、新しい名前の「公益財団法人野球殿堂博物館」の文字が太陽の光に映えて鮮やかに現れました。続いて参列者と私を加えた5名によるテープカットを行いました。プロ・アマを含めた日本球界全体で支えられている日本唯一の「野球体育博物館」は、「野球殿堂博物館」と名前を変え、新たなスタートを切りました。今後も日本野球と野球文化発展のため努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

左から廣瀬館長、市野理事、加藤理事長、林理事、久代理事

館長　廣瀬　信一

役員一覧

（平成25年4月1日現在）

	名前	会社名	役職名		名前	会社名	役職名
理事長	加藤　良三	一般社団法人日本野球機構	コミッショナー	評議員	飯田　則昭	株式会社西武ライオンズ	専務取締役
理事	市野　紀生	公益財団法人日本野球連盟	会長	評議員	髙田　浩一郎	福岡ソフトバンクホークス株式会社	取締役執行役員
理事	内藤　雅之	公益財団法人日本学生野球協会	常務理事・事務局長	評議員	井上　智治	株式会社楽天野球団	取締役オーナー代行
理事	大森　一人	公益財団法人全日本軟式野球連盟	会長	評議員	林　信平	株式会社千葉ロッテマリーンズ	執行役員 運営本部長
理事	下田　邦夫	一般社団法人日本野球機構	事務局長	評議員	村山　良雄	オリックス野球クラブ株式会社	常務取締役 球団本部長
理事	林　有厚	株式会社東京ドーム	代表取締役相談役	評議員	井原　敦	一般社団法人日本野球機構	事務局次長
理事	久代　信次	株式会社東京ドーム	代表取締役社長	評議員	田和　一浩	公益財団法人日本学生野球協会	理事
業務執行理事	廣瀬　信一	公益財団法人野球殿堂博物館	館長	評議員	﨑坂　徳明	公益財団法人日本野球連盟	事務局長
評議員	山岸　均	株式会社読売巨人軍	取締役連盟担当	評議員	宗像　豊巳	公益財団法人全日本軟式野球連盟	専務理事
評議員	佐藤　良平	株式会社中日ドラゴンズ	取締役	評議員	山田　博子	国際野球連盟	女子野球委員
評議員	新　純生	株式会社ヤクルト球団	専務取締役	評議員	佐々木　毅	元東京大学	総長
評議員	鈴木　清明	株式会社広島東洋カープ	常務取締役球団本部長	評議員	森　正博	公益財団法人日本体育協会	副会長
評議員	四藤　慶一郎	株式会社阪神タイガース	専務取締役	評議員	北田　英壹	株式会社東京ドーム	専務取締役
評議員	笹川　博	株式会社横浜DeNAベイスターズ	取締役兼連盟担当	監事	久保　博	株式会社読売新聞東京本社	常務取締役事業局長
評議員	島田　利正	株式会社北海道日本ハムファイターズ	取締役球団代表	監事	長岡　勤	株式会社東京ドーム	常務取締役

（公財）野球殿堂博物館 名称変更記念　特別展「野球殿堂のあゆみ」

- 日　時　～7月7日(日)
- 会　場　館内 企画展示室

「野球殿堂」は、日本の野球の発展に大きな貢献した方々の功績を永久に讃え、顕彰するために1959年に創設されました。

本年4月の「野球殿堂博物館」への名称変更の記念として、2013年までに殿堂入りした180名の方々の紹介とともに、表彰規程の変遷、表彰式の写真などを展示し、「野球殿堂」の歴史と現在をわかりやすく紹介します。

また、東京六大学野球連盟所蔵の長嶋 茂雄選手（立教）の六大学新記録（当時）8号本塁打達成バット（写真上）を特別展示するほか、当館所蔵の殿堂入り選手、関係者の用具や記念品など約60点を展示します。

「公益財団法人」認定取得に向けて　～その③～

館長　廣瀬　信一

今回で最終報告となりますので、「まとめ」として取得までの経緯を時系列でご説明させていただきます。

平成18年６月に公益法人制度改革に関連する３法が公布され、現存の公益法人は20年12月から25年11月末日までの５年間に、「一般社団（財団）法人」か「公益社団（財団）法人」への移行をしなければならないことが規定されました。

当館は、これを受けてまず19年の理事会・評議員会において事前準備として基本財産の一部処分及び補填の承認決議を行い、財務諸表の整備に着手いたしました。続く、20年、21年の理事会・評議員会において、「公益財団法人」への移行の選択が示されました。22年では、新たな組織体制を見据えて「寄附行為」の一部改正を行いました。翌23年から本格的な具体的作業に入り、理事会・評議員会で「評議員選定委員会設置」の承認を得た後、顧問税理士を交えた対策プロジェクトチームを７月に発足いたしました。チームは原則月１回集まり、メンバーはそれぞれ分担を決めて、また相互に進捗状況を確認しながら着実に課題を遂行していきました。会議は、内閣府に申請書提出後の昨年８月まで継続して行われ、計13回開催いたしました。比較的順調に認定取得ができた要因として、関係者のご協力もありますが、対策チームを編成して効果的に取り組んだことがあげられると思います。

最初にチームが取り組んだことは、おそらく大多数の法人同様、所轄官庁（当館では文部科学省）に対し「最初の評議員の選任に関する理事の定め」の認可を申請したことです。その後、理事会・評議員会において正式に「公益財団法人」への移行と「内閣総理大臣」への認可申請が承認決議されました。内閣府の担当官と事前相談を２回行った後、24年の理事会・評議員会において制度改革の中心をなす「定款」、「組織体制」の承認決議を行い、新体制の評議員を決める「最初の評議員選定委員会」を開催いたしました。膨大な提出資料を準備し、対策チーム発足から１年後の７月17日に、内閣府へ移行認定申請をいたしました。その後、申請書類の確認調査、指導を２回受け、再申請を繰り返した後、11月２日付で内閣府の公益認定等委員会から念願でありました認定の答申をいただきました。当館の移行登記希望日が本年４月１日のため、それに合わせて内閣総理大臣から３月21日に正式に交付されました。

今回、認定取得と併せて名称変更という歴史的事業に関わることができ、また無事に達成できたことは非常に光栄なことであり、貴重な経験を積むことが出来ました。

最後に、今回公益財団法人の認定取得ができましたことは、関係者の方々のご協力、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。特に、先行されて認定を取得された野球関係の諸団体の方々には、お忙しい中快く相談に応じていただき、また懇切丁寧にご教示をいただき、本当に有難うございました。厚くお礼申し上げます。

公益財団法人認定取得の経緯

日　付	内　容
平成21年６月９日	・理事会・評議員会において、公益法人への移行を決定
平成22年７月６日	・理事会・評議員会（書面）にて「寄付行為」の一部改正を承認
平成23年６月13日	・理事会・評議員会にて評議員選定委員会設置を承認
平成23年７月14日	・公益法人認可取得までの対策プロジェクトチームを館内に設置し、第１回会議を開催（以降原則月１回開催）
平成23年10月22日	・文部科学省に「最初の評議員の選任に関する理事の定め」の認可を申請
平成23年10月28日 および10月31日	・理事会・評議員会（書面）にて公益財団法人への移行と内閣総理大臣への認定申請を決議
平成23年11月24日	・文部科学省より最初の評議員の選任に関する理事の定めの認可がおりる
平成24年６月11日	・理事会・評議員会にて「寄付行為」の一部改正と「定款」、「名称変更」、「組織体制」等の承認を決議
平成24年６月27日	・最初の評議員選定委員会開催
平成24年７月17日	・内閣総理大臣へ公益財団法人への移行認定を申請
平成24年11月２日	・内閣総理大臣より公益財団法人移行認定の答申がでる
平成25年３月21日	・内閣総理大臣より公益財団法人認定の交付を受ける
平成25年４月１日	・公益財団法人 野球殿堂博物館となる

知ってほしいこんな資料（81）

2013WBC侍ジャパン関連資料展示

当博物館では2013WBC開催に際して、侍ジャパンを応援する企画展「WBC展」を開催しました（3/31まで）。今大会でもNPBのスタッフの皆さんに多大なご協力をいただき、バラエティーに富んだ大会関連資料を収集、タイムリーに展示をし、いち早くご来館のファンの方々にご覧いただくことができました。

特に、今大会では侍ジャパンのすべてのウイニングボールを展示しようということで、チームスタッフが試合終了直後に回収を行い、グラウンドでの勝利監督インタビューを終えたばかりの山本 浩二監督にお願いをして、ボールに日付、対戦相手、サインに加え、メッセージを書いていただきました。

逆転勝利で初戦を飾った３月２日のブラジル戦では“対ブラジル １勝”、翌３日の中国戦では“侍ジャパン”、延長10回の息詰まる熱戦を制した８日の台湾戦では“劇闘”、準決勝進出を６本塁打16得点の大勝で決定した10日のオランダ戦では“いざアメリカへ！”、そして第２ラウンド１組首位通過を決めた12日のオランダ戦では“頂点めざして！”と、勝利直後の興奮が伝わってくるような勢いのある文字が書かれています。

第１ラウンド（ヤフオクドーム）の２、３日の試合のウイニングボールは５日㈫より、第２ラウンド（東京ドーム）での３試合のウイニングボールは試合終了後にスタッフから受け取り即展示をし、それぞれ翌朝の開館からタイムリーに公開しました。

この他、メンバー表や試合前のセレモニーで交換された対戦相手の帽子なども順次公開しました。また、侍ジャパンは惜しくも準決勝でプエルトリコに敗れてしまいましたが、前田 健太投手スパイク、田中 将大投手スパイク、糸井 嘉男選手バット、中田 翔選手バットなどを現地でスタッフに収集していただき、３月29日より、エントランスホールの侍ジャパン特別展示にて公開しています。

ぜひご覧ください！

学芸員　関口　貴広

◀ウイニングボールや山本 浩二監督着用ユニホーム、前田 健太投手スパイクなど。４月１日以降も引き続き展示中です。

▲対戦相手の帽子、メンバー表

殿堂入りの人々を語る (39)

父・長船 騏郎（きろう）

長船　至（長船 騏郎氏 長男）

2012年野球殿堂入り
長船 騏郎氏レリーフ

私の父・長船 騏郎は大正13（1924）年１月30日に岡山県で生まれました。父の実家は二日市町（現在の岡山市北区二日市町）という所で魚問屋を営んでいました。

小学校を卒業後、姉夫婦が教師をしていた天理中学（現・天理高校）へと進みます。中学校時代は野球のほか、ラグビー（ポジションはフォワード）もやっていたと聞きました。私が高校時代にラグビー部に誘われた時、自分がやっていたのでどれほど激しいスポーツかわかっていたからなのでしょう「ラグビーは怪我をするからダメだ」と反対されました。

中学を卒業し、早稲田大学に入学し野球部へ入りますが、戦争が激しくなり、学業半ばで戦地へ赴きました。ロシアと満州の境あたりに行ったようですが、戦争中のことは、思い出したくないことが多かったのでしょう、このころの話は、あまり聞いたことがありません。戦地から戻り、日本冶金（やきん）に就職し、その後ニチレイに勤めます。実は、実家へ帰り魚問屋を手伝ってもいいと思っていたようですが、伊丹 安広氏（1978年殿堂入り）に連盟を手伝ってもらえないかと誘われ、昭和27（1952）年から東京六大学野球連盟に勤めることになります。この時は、戦後再開の段階でもあり手伝いのつもりだったようですが、結局亡くなる平成19（2007）年まで勤めました。

春と秋のリーグ戦、新人戦の期間は土・日も神宮へ、春の選抜高校野球、夏の高校野球選手権大会は何週間も宿泊し甲子園へ、６月の全日本大学野球選手権、11月の神宮大会でも神宮と家の往復という生活をしていました。野球シーズンというのは季節のいいころ、学校が休みの時なので、私は小さいころ他の家と違うなと思っていました。そんな忙しい父でしたが、父が旅行の予定を立て伊豆や修善寺、箱根などへ家族旅行に行ったのは楽しい思い出の一つです。

我が家に各学校の主にマネージャーを呼んで、鍋パーティー、バーベキューなどもやっていました。まだまだ肉が高級品の時代に、いつもご苦労様という気持ちでご馳走していたのだと思います。

野球のオリンピック参加では、シドニー大会以降プロの力を借りてチームを組織しました。父は学生野球界に於いては日本学生野球憲章を順守することを大切にしていましたが、オリンピックなどの国際大会で勝つためには、やはりプロの力が必要だと考えたのだと思います。

長嶋 茂雄さんが監督でしたアテネ大会では、長嶋さんが病気で倒れてしまい、中畑 清さんが監督代行を務めました。この時なぜ他の人を監督にしないのか？と言われましたが、父は「病は気から。監督を代えたら長嶋の病気が治らない」と言って監督を代えることはしませんでした。父の長嶋さんへの応援メッセージだったのです。銅メダルで残念でしたと話す中畑さんに父は銅という漢字は金と同じと書くのだよと慰めたと聞いています。

父はオリンピックやアジア大会、大学野球部の海外遠征など、海外への同行も多く、そこで知り合った人たちとの交流を深めていました。遠くはブラジル、そして台湾や韓国、ハワイなどへはよく行っていました。父は、人とのつながりを大切にしていました。私の仕事の関係でも、父と知り合いの方たちがたくさんおられます。「長船」という苗字はそれほど多くないので、名刺を出すと「あの長船さんの息子か？」と言われたことが何度もありました。

父の知り合いは世界中に広がっています。父はその方たちとの「絆」を日本中の野球関係者と同様に大切にしていました。同時に母・宏子と２人の子供、４人の孫、３人のひ孫のことをいつも心に留める家族思いの父でした。

（３月８日に長船 至様から伺ったお話を基に編集いたしました。）

こんにちは図書室です

荒谷野球団（あらたに）

今から85年前の昭和３（1928）年、アメリカ・カリフォルニア州から荒谷野球団というチームが来日しました。この荒谷野球団は８月23日に神宮球場で駿台倶楽部と対戦し、５対３で勝利しました。この時の駿台倶楽部には田部 武雄（1969年殿堂入り）が２番ショートで出場しています。その後、横浜（対東京鉄道局、対全横浜）、兵庫（対大毎、対全大阪）、東京（対慶大、対稲門）、横浜（対横浜高工）、北海道（対太洋倶楽部）、広島（対全呉、対八幡製鉄）、福岡（対八幡製鉄、対門鉄）、兵庫（対宝塚協会）と転戦し、大学のOBチームや各地のクラブチームなどと合計27試合を戦い、22勝４敗１分の戦績でした。

このチームについて、雑誌「野球界」の11月号（Vol.18 No.13 1928年）にオーナーの荒谷 節夫氏が、「チームのメンバーは、全部私の農園で働いている事務員です。米人10名、邦人３名、メキシコ人２名」と書いています。また、主将の松野氏は「加州にチームは多くあるが日本人と白人と共同団結してやっているチームは吾々のチーム以外にありません。」と語っています。

オーナーの荒谷氏は、ご自身について「私は本年42歳になるが、かつて尾道中学に在学した頃野球をやっていました。（前出）」と書いています。そして明治38（1905）年、19歳で渡米し、サンフランシスコへ。大正12（1923）年にカリフォルニア州中部のグアドループにグアドループ農産商会を起し、農場を経営していました。

プロ野球ができる前に、日本でトップクラスの実力があるチームを圧倒した荒谷野球団。図書室にある「野球界」や「運動界」、「運動年鑑」などでチームの足跡を追う事ができます。

荒谷野球団　後列右より２人目が荒谷 節夫氏
（野球界　1928年11月号より）

司書　茅根　拓

お知らせ 当館ホームページのデジタルアーカイブに『Outdoor Games』（1883年発行）の「ラウンダーズ」と「クリケット」の日本語訳を掲載しました！

2013年度の維持会員を募集中！

「公益財団法人 野球殿堂博物館」（旧・財団法人 野球体育博物館）は、昭和34（1959）年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約３万点、図書・雑誌は約５万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年１回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

１．会員の特典

(1)当博物館発行「ニュースレター」（季刊）を送付します。
(2)無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
(3)アメリカの野球博物館（クーパースタウンにある）にも無料で入館できます。

(4)会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
(5)イベント情報などを優先的にご案内します。
(6)博物館で販売している商品が10%引きになります。
＊新個人会員には上記の特典のほか、『野球殿堂 2012』を進呈します。（ジュニア会員を除く）
＊新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球殿堂博物館オリジナルピンバッチ」を差し上げます。

２．会員の種類と会費

年会費（４月～翌年３月迄）

法人会員	１口	100,000円
個人会員	１口	10,000円
ジュニア会員（小・中学生）		2,000円

＊ご入会月により、個人会員の初年度年会費が割引になります。

ご入会月	4月～9月	10月～12月	1月～3月
維持会費（個人会員）	10,000円	5,000円	2,000円

３．ご入会の方法

①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。
「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。
②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ　博物館　業務部（TEL 03－3811－3600）
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

野球殿堂博物館 トピックス（2013年１月～３月編）

バート・ブライレブン氏、スティーブ・ジャンセン氏が来館！

左から廣瀬館長、ブライレブン氏、ジャンセン氏

３月12日、WBCオランダ代表チームの投手コーチを務めるバート・ブライレブン氏と、同ブルペンコーチを務めるスティーブ・ジャンセン氏が来館しました。ブライレブン氏は2011年にアメリカの野球殿堂入りとして選出されました。

日本女子プロ野球リーグ・新球団ユニホームが寄贈されました！

３月23日、日本女子プロ野球リーグの選手4名ならびに日本女子プロ野球機構のご関係者にご来館いただき、当館殿堂ホールにて、新球団のユニホーム寄贈セレモニーを行いました。

セレモニー後は、女子野球コーナーをはじめ、館内の展示をご覧になりました。新球団ユニホームは、女子野球コーナーに展示しています。

左から、岩谷 美里選手、小西 美加選手、大澤 靖子選手、佐藤 千尋選手

博物館からのお知らせ

▶販売中！

● 平成25年野球殿堂入り記念直筆サインボール
大野 豊氏・外木場 義郎氏

平成25年野球殿堂入りされました大野 豊氏・外木場 義郎氏それぞれの直筆サインボールです。
公益財団法人 野球殿堂博物館　理事長の証明書が付属、ボールケース底、証明書にはシリアル番号が入ります。

大野 豊氏

外木場 義郎氏

【ボール】NPB統一球　直筆サイン入り
【素　材】ケース：ガラス／台座：木製
【カラー】ケース：透明／台座：ブラウン
【付属品】野球殿堂博物館証明書、野球殿堂 2012（書籍）、野球殿堂博物館ご入館券６枚
【販売数】50個
【サイズ】ボールケース：縦14.5×横13×奥行13cm（奥行は台座含みます）
※なお、このボールはインターネットのみの販売になります。
http://shop.npb.or.jpからお申し込み下さい。

● かっとばし　大（男性用）・中（女性用）1,890円（税込）
小（子供用）1,575円（税込）

折れたバットのリサイクル商品「かっとばし」を販売しています。
この箸は野球殿堂（Hall of Fame）のロゴが入った博物館オリジナル商品です。
また、侍ジャパンのかっとばし（大・中・小　各2,100円）も販売中です。

【かっとばしの仕様】長さ：※大 23.5cm　中 21.5cm　小 18.0cm
材質：バット材アオダモ　　塗装：箸先部 うるし塗装

● 博物館のご案内

場　　所　東京ドーム21ゲート右
開館時間　３月１日～９月30日 AM10時～PM６時
10月１日～２月末日 AM10時～PM５時
（入館は閉館の30分前まで）
入 館 料　大　　人　500円（300円）｝（　　）は
小・中学生　200円（150円）｝20名以上の団体
65 歳 以 上　300円
休 館 日　月曜日（祝日、プロ野球開催日、春･夏休み中の月曜日は開館）
年末年始（12月29日～１月１日）

《４月・５月・６月・７月の休館日》
４月　22日
５月　13日・20日・27日
６月　３日・10日・17日・24日
７月　３日・８日
※７月３日㈬は都合により臨時休館いたします。

●編集後記　４月１日から博物館の名前が変わり「公益財団法人 野球殿堂博物館」となりました。末長く親しんでいただきますよう、よろしくお願いいたします。「コラム博覧／博楽」は都合によりお休みします。

野球殿堂博物館 Newsletter 第23巻 第１号
2013年４月16日発行（年４回発行）
編集・発行　公益財団法人 野球殿堂博物館
（旧･財団法人 野球体育博物館）
〒112－0004　東京都文京区後楽１－３－61
Tel 03（3811）3600　Fax 03（3811）5369
http://www.baseball-museum.or.jp/

リレー随筆(52)

野球人の原点とは

競技者表彰委員会幹事　　寺尾　博和（日刊スポーツ新聞）

その赤楽茶碗は毛筆で『初心』と題名がつけられた。歌舞伎界の名女方、坂東 玉三郎丈と日本海に浮かぶ離島にわたって、二人で陶芸小屋にこもったときのことだ。

轆轤（ろくろ）を用いず、手捻りで、細くしなやかな指で土を揉むように手ぐすね、高台をヘラで削っては、形を整えていく。ちょっとでも気に入らないと最初からやり直しては、いつの間にか日はどっぷりと暮れていた。

一日中小屋に座して作るため、そのうち腰が痛くなって、わたしは途中で音を上げかけたが、そこは凡人と違うところ。詳細は省くが、後に窯出しされた茶碗は付き添った著名な陶芸家が唸るほどの仕上がりをみせたのだ。

三島 由紀夫が「奇蹟の花」と称し、人間国宝（重要無形文化財保持者）の認定を受け、名実ともに世界が認める存在として芸の継承に息を吹き込む。その稀代の歌舞伎役者は、自らとった筆で、茶碗をおさめる桐箱に『初心』と書き、題名をつけたのだ。新歌舞伎座が開場したが、その道を極めた人でも慢心を戒めるものと身震いした瞬間だった。

こちらも幕を開けた日本プロ野球界にとって、今年は真価が問われる。WBCは消化不良で終わったし、2020年野球五輪復活をかけたシーズンでもあるからだ。

ここ数年、IBAF（国際野球連盟）の五輪復活委員で、1985年阪神日本一監督の吉田 義男氏ご夫妻とフランスのパリで合流することになっている。昨年もイタリア野球連盟などを視察してきた。ムッシュ吉田ほど日本球界で国際大会を経験した持ち主は見当たらない。なにせ７シーズン指揮をとった仏ナショナルチーム監督では、五輪出場などを狙って世界33カ国で采配をふるってきた。

フランスのような野球後進国に根付かせるのは並大抵ではなかっただろう。「ノックバットがコミュニケーションだった」。捕手は構えたところにピッチャーの球がこないと捕球しない…。送りバントの犠牲という意味が理解できない…。初めて渡仏した際の水準はそんなふうだったという。名選手、名監督として知られる吉田氏にとっては、さぞかし苦痛だったことは察するに余りある。

阪神で21年ぶり優勝を果たすが、その２年後には最下位転落。お家騒動は当時の阪神の得意芸。吉田氏は天から地に墜ち、監督の座を追われる。しかし、野球未開の地でムッシュ吉田はその無念を秘めながら、歯を食いしばって、現地で素晴らしい仲間たちと出会って背中を押され、励まされ、再び野球に打ち込むのだった。

毎年、パリ市内に当時の教え子たちが一堂に会して同窓会を開く。官僚、ホテルマン、米大リーグスカウト…、社会人としても立派に育っていったメンバーには、スポーツメーカーの経営者もいる。毎年訪れるフランスだが、サッカー主流の欧州ではめったに野球に楽しむ光景に出くわさない。スポーツメーカーを営む彼は、吉田氏に「わたしが作ったミットを見てくれないか？」と差し出した。そのミットのポケット部分には『心』と『技』と日本語で刺繍されていた。「ムッシュに言われたことは今でも覚えている。練習、練習って…。これからこのミットを販売していくから」。野球の伝道師の魂が継承されていることを証明する師弟のやりとりに心が和んだ。

そう言えば、野球界の正月といわれる２月１日キャンプインの日、この日になると体がうずくのか、自宅の庭先で椅子に座った野球の神様、川上 哲治さんがサンドウエッジを握って止まったボールをアプローチし続ける姿にも鳥肌が立った。「人には死ぬまでこれでいいという完成はないんです」。自分のため、家族のため、チームのためだけでなくファンのため、社会に対する報恩感謝の精神という持論。ここにも奥義を極める野球人の〝原点〟をみる。

最近テレビなどから聞こえる野球解説には、ただ単に現役時代の経験だけを持ち込んで、いったい研鑽を積んでいるのかと首をかしげる評論も目立っている。ブラウン管の向こうにいる野球ファンはそう甘くない。

ある日、パリ東部のヴァンセーヌの森にあるペルシング球場で、野球のゲームが行われていた。土砂降りの中、その現場に立って厳しい視線を注ぐムッシュ吉田の姿はあった。初心に立ち返る。野球人のあるべき姿だ。